

# 「事業名:福島復興知学の深化と展開:ミルフィーユ型人材の育成基盤構築」 2022年度補助事業の実績・成果

東京大学(共同申請:福島工業高等専門学校)

連携市町村:いわき市、大熊町、広野町、葛尾村、富岡町、楢葉町、

現地拠点:楢葉町大字北田字鐘突堂5番地の4 楢葉町コミュニティセンター内、広野町下北迫大谷地原65-3二ツ沼公園パークギャラリー、いわき市平上荒川字長尾30 福島工業高等専門学校内

## 事業のポイント

復興知とイノベーション・コースト構想の推進に必要な多層的な知識・技能を身につけた人材を「ミルフィーユ型人材」とし、自治体・大学等・企業等と連携してミルフィーユ型人材を育成する。さらに、人材育成を通じて産業創出や国際的情報発信も行う。

## 今年度の活動実績

### 【地域の創造的復興を担う人材の育成基盤構築】

- ・楢葉町と連携して、復興知のアウトリーチ活動も担う合同展示資料のデザインを実施した。関連する市民講演会と展示会を連携する自治体で実施した。
- ・未来人材育成プログラムとして、連携する自治体の小中学高校生400名以上に前出授業・科学体験教室を実施した。
- ・市民講演会、企業向けセミナー、自治体向けに各種セミナー・勉強会等を実施した。

### 【福島を舞台として、世界的視野で福島の発展を担える人材の育成基盤構築】

- ・東京大学、福島工業高等専門学校で復興知教育プログラムを実施し、のべ100名以上に放射線教育を実施した(復興知講義、放射線管理学など)。
- ・浜通り自治体・施設等と連携して、のべ100名以上の大学生にフィールド学習と地域交流を実施した。
- ・国際原子力機関(IAEA)関係者の講演会を実施した。フィールド学習でもIAEA関係者からのビデオ講演をおこない、国際交流もおこなった。

## 今年度の成果

- ①小中高校生を対象とした科学教室・出前事業を実施し、人材育成の基盤となる教育プログラムを構築した。
- ②ミュージアム連携事業を基軸として、地元自治体との連携、地元企業との連携(旅行会社と共同して浜通り修学コースの策定など)、地元NPOとの連携(語り部事業など)が着実に進展した。
- ③復興知フィールド学習では、地元の高中生と高専生が参加し、浜通り地域内外の若者交流を促進した。また、フィールド学習に参加した高校生と高専生が放射化学学会で成果発表を行い、奨励賞を受賞した。
- ④国際的な情報発信もおこなった。



大学生、高専生、高校生がともに学ぶ



グループディスカッション



中間貯蔵施設



首長との対話